

合格しやすくなっている土木施工管理技術検定試験

2020年度の1級土木施工管理技術検定実地試験は合格率45.3%（合格者1万1,190人）であった。数値を見て、やさしいまたは難しいと思うか、捉え方はさまざまであろう。

ただ、12年度試験から実地試験は30%以上の合格率を維持しており、過去10年で最も合格率が低かった10年度の合格率18.5%（合格者数5,720人）と比較すると2倍以上に上昇した。合格者数も倍近くに増え、過去10年間で合格者数が最大であり、近年では極めて高い数値といえる。技術者不足が叫ばれて久しい昨今、本年度の試験もこのような合格率で推移

することが予想される。

施工管理技士はどの企業ものどから手が出るほどほしい人材といっても過言ではなく、建設業界に身を置き受験資格を持つ者であれば施工管理技士の資格取得に挑戦することをおすすめしたい。そして、いまが試験に挑戦する絶好の機会なのである。

◆建設業界で必須の資格「施工管理技士」
いま日本では、企業をとりまくビジネスシーンが激変している。「大企業不倒神話」が崩れて久しいが、終身雇用制の崩壊など、人的な側面からも過去に「常識」と思われていたことが大きく変化し、

同時に人物の見方も変化している。

これまでは「どこの大学を出て、どの会社にいるか」、そして「何をやってきたか」といった「ブランド」が主に問われてきたが、いまでは「あなた自身」が「これからなにをできるか」。つまり、ブランドで判断されることよりも、「あなただからこそできることはなにか」という「個人能力」がダイレクトに問われるようになってきたのである。しかし、いくら知識があることをアピールしても、言葉だけで信用してもらえぬほど社会は甘くない。そこで必要となるのが資格である。資格は、仕事をして

受験・合格者数の推移

試験区分	対象年度	H22年度	H29年度	H30年度	R1年度
学科試験	受験者数	39,733	34,629	28,512	33,036
	合格者数	21,066	22,930	16,117	18,076
	合格率	53.0%	66.2%	56.5%	54.7%
実地試験	受験者数	30,864	31,414	27,581	24,688
	合格者数	5,720	9,424	9,521	11,190
	合格率	18.5%	30.0%	34.5%	45.3%

いく上で必要なスキルを身に付けていることを客観的に証明でき、取得することで初めて信用を獲得できるのである。施工管理技士はまだ不足しており、そのような資格を有する人材を企業が欲しがらないはずはなく、「建設業」で不可欠な国家資格としての地位はこれからも高く保証されるに違いない。

日本建設情報センター（CIC）では、施工管理技士試験に特化した受験対策講

座を手がけ、独自の学習法のもと、大きな実績を上げてきた。施工管理技士の資格は、建設業の現場で最も必要とされる資格の1つである。そこで、このコラムでは4回にわたり、施工管理技士の受験対策講習会に特化した22年、昨年は2万人以上の受講生に選ばれたCICが多忙な受験生に向けて最小の努力で、最大の結果（合格）が出せるような情報や試験傾向など受験に役立つ情報を公開していく。本コラムにより、施工管理技士仲間入りへの第一歩を踏み出していだければ幸いである。

（CIC日本建設情報センター）

2020年2月18日付
建設通信新聞 第10面（最終面）